

問題訂正（地理歴史（日本史B））

下記の問題訂正があります。

記

（問題訂正）

地理歴史 問題冊子

表紙（注意）3行目

（誤）日本史B：15ページ

↓

（正）日本史B：8ページ

Ⅰ 日本史B問題 31ページ

6行目

（誤） 謀反・殺害のほか

↓

（正） 謀叛・殺害のほか

以上

日本史 B

(4 問題 100 点)

I 日本史 B 問題

(20 点)

次の史料(A～C)を読み、問(1)～(18)に答えよ。解答はすべて所定の解答欄に記入せよ。なお、史料の表記は便宜上、改めたところがある。

A

飛鳥清原大宮に大八州御しし天皇の御世にいたり、潜竜、元を体り、
洊雷、期に応う。夢の歌を聞きて業を纂がんことを相い、夜の水に投じて基を
承けんことを知る。然れども、天時、未だ臻らずして南山に蝉蛻し、人事、
共給わりて **ア** 国に虎歩す。皇輿、忽ちに駕して、山川を凌え度り、
六師、雷のごとく震い、三軍、電のごとく逝く。矛を杖つきて、威を挙げ、
猛士、烟のごとく起る。絳旗、兵を耀し、凶徒、瓦のごとく解く。(中略)
歳、大梁に次り、月、俠鐘に踵りて、清原大宮にて昇りて天位に即く。
(中略)是に天皇、詔す。「朕、聞く。諸家の齎てる **イ** と本辞と、既に
正実に違い、多く虚偽を加う。今の時に当たりて、其の失を改めざれば、未だ
幾ばくの年を経ずして、其の旨、滅びんとす。斯れ乃ち、邦家の経緯にして、
王化の鴻基なり。故、惟みるに、**イ** を撰び録し、旧辞を討ね竅め、偽
りを削り実を定め、後葉に流えんと欲す。」

(注) 「潜竜、元を体り、洊雷、期に応う」は、まだ即位していない人物が、
天子たるべき徳を備え、好機を得ていること。

「蝉蛻」は、出家して仏道修行すること。

「虎歩」は、虎のように他を威圧しながらあゆむこと。ここでは、兵を
集めながら移動することを示す。

「絳旗」は、赤い旗のこと。

「歳、大梁に次り、月、俠鐘に踵りて」は、673年2月を指す。

「討ね竅め」は、よく調べ正すこと。

問

- (1) には，東，西，南，北のいずれかの文字が入る。適当な文字を記せ。
- (2) 下線部(a)に関して，文中の「天皇」が行軍中に勝利を祈願した神は，皇室の祖先神とされた。その神を祭る宗教施設は，律令国家の神祇制度の中心に位置づけられることとなるが，この宗教施設の名称を記せ。
- (3) 下線部(b)に関して，「凶徒」の中心的な人物は，前天皇の皇子であったものの，この戦いに敗れて自害した。その人物とは誰か。
- (4) 下線部(c)に関して，この後，「清原大宮」の北西に新たな都の造営が開始された。この都は，それまでの都にはなかった特徴を備えていた。その特徴を簡潔に説明せよ。
- (5) 下線部(d)に関して，この時期に隆盛した仏教を基調とする文化を何と呼ぶか。
- (6) に入る適当な語句を記せ。
- (7) この史料は，712年にできた書物の序の一部である。この書物を筆録した人物は誰か。

B

一、諸国守護人奉行の事
(注)

右、右大将家の御時、定め置かるる所は、大番催促・謀叛・殺害人(付たり、^(e)夜討・強盗・山賊・海賊)等の事なり。^(f)しかるに近年、代官を郡郷に分ち補し、公事を荘保に充て課し、国司にあらずして国務を妨げ、地頭にあらずして地利を貪る。所行の企てはなほだもって無道なり。(中略)早く右大将家御時の例に任せて、大番役ならびに謀反・殺害のほか、守護の沙汰を停止せしむべし。もしこの式目に背き、自余の事に相交わらば、或は国司・領家の訴訟により、或は地頭・土民の^{しゅううつ}愁鬱^(注)によって、非法の至り^(g)顯然たらば、所帯の職を改められ、穩便の輩を補すべきなり。

(中略)

一、ウ 兵乱の時、没収の地の事

右、京方の合戦を致すの由、聞し食しおよぶによって、所帯を没収せらるるの輩、その^{とが}過なきの旨、証拠分明ならば、その替を当給人に充て給い、本主に返し給うべきなり。これすなわち、当給人においては^(h)勲功の奉公あるの故なり。

次に、⁽ⁱ⁾関東御恩の輩の中、^(j)京方に交わりて合戦の事、罪科ことに重し。よつてすなわちその身を誅せられ、所帯を没収せられおわんぬ。

(注) 「奉行」は、この場合、職務として遂行すべき事柄の意味。

「愁鬱」は、具体的には訴訟を指す。

問

- (8) 下線部(e)の「右大将家」とは誰か。
- (9) 下線部(f)の「大番催促」とはどのようなことか。簡潔に記せ。
- (10) 下線部(g)の「所帯の職」とは何を指すか。左の史料中にみえる語句で記せ。
- (11)

ウ

 には元号が入る。この元号に改元後まもなく、鎌倉に下向し、のちに将軍となった人物の名を記せ。
- (12) 下線部(h)の「勲功の奉公」とは具体的にどのようなことか。簡潔に記せ。
- (13) 下線部(i)の「関東御恩の輩」を統率するために置かれた機関の初代長官の名を記せ。
- (14) 下線部(j)の「京方」を統率した最高権力者が軍事力の強化のために、新たに組織したのは何か。

C

「エ 君と新島襄君」

エ 君は鉄道の技術師にも非ず、電気学者にも非ず、而して君が常に鉄道電信と云々して、口に絶たざる所以^{ゆえ}の者は、鉄道電信を愛するに非ず、鉄道電信に依って成就したる物質上の文明を愛するものなり、新島君は純乎たる僧侶に非ず、而して其基督教を主張して止まざる者は、啻^{ただ}に基督教の伝播⁽¹⁾を欲するに非ず、基督教の主義を人事に適用せんと欲すればなり、是れに因って知るべし、二君は実に泰西文明の二大原素を我が邦に輸入せんとするの案内者にして、泰西表面の文明たる物質的の智識は、エ 君に依って案内せられ、泰西裏面の文明たる精神的の道徳は新島君に於て案内せらる、(中略)

人或はエ 君の教育を以て、無主義の教育と為す者あり、然れども其無主義の如く見ゆるのは、即ち最も其主義の一貫したるを証すべし、勿論君が二十年間唱道したる所の議論をば、其著述したる所のものに就て、即ち西洋事情、学問の勧め、文明論の概略、分権論、民情一新、時事小言、近くは時事新報の社説に至る迄、細に之れを点検したれば、随分自家撞着^(注)も多かるべし、然りと雖も自家撞着の議論、君に於て何かあらん、何となれば君が唱道する所の者は、皆時世に応じて立てたる議論なればなり、(中略)

何人と雖も其勢力を有することは容易なれども、其勢力を誤用せざることは甚だ難し、クロンウエル^(注)は鉄騎を有せり、然れども之れが為めに心ならずも兵隊政治を行へり、オ は私学校を有せり、然れども之れが為めに心ならずも十年内乱の総大将となれり、又現今に於て世の所謂^{いわゆ}の壮士輩の主領と仰がるる人々無きに非ず、然れども其力は能く壮士をして平和、穩当、正大の挙動を為す能はしめざるは何ぞや、職として彼らが率ゆる所の者を能く支配する能はざるに依る、独りエ 君に至っては然らず、(中略)君が人に教ゆる所の者は、唯文明の人となり、生活社会に立って、敢て人に後れを取る無からんことを勤むるに在ればなり、

(『国民之友』第 17 号 1888 年 3 月 2 日)

(注) 「自家撞着」は、同一人の文章や言動が前後で食い違っていること。

「クロンウエル」は、オリバー＝クロムウエル(1599-1658)のこと。

問

- (15) に入る人物の氏名を記せ。
- (16) 下線部(k)に関連して、
- (あ) 1870年に設置されて鉄道や電信を所管した省の名を答えよ。
 - (い) この論説が書かれた翌年に全通した東海道線はどこからどこまでか。
- (17) 下線部(1)に関連して、
- (あ) 明治政府は五榜の掲示によって、「基督教」にどのような方針を示したか。
 - (い) 大日本帝国憲法では、「安寧秩序を妨げず、及^{および}たるの義務に背かざる限に於て」(第28条)という留保付きで、信教の自由が認められた。
- に入る語句を記せ。
- (18) に入る人物の氏名を記せ。

Ⅱ 日本史B問題

(20点)

次の文章(①～⑩)の ～ に入る最も適当な語句・数字を記せ。解答はすべて所定の解答欄に記入せよ。

- ① 旧石器時代には、石器をもちいた狩猟がおこなわれた。長野県の 湖では、 象の化石骨と打製石器が同じ土層から発見されている。
- ② 完新世になると、東日本に落葉広葉樹林が、西日本に が広がった。新たな自然環境に対応しつつはぐくまれた縄文文化の姿は、食物残滓や土器などが捨てられた からうかがうことができる。
- ③ 弥生時代は集団抗争が激化した時代であり、何重もの濠をめぐらせた佐賀県吉野ヶ里遺跡は 集落の代表である。107年に後漢に朝貢した倭国王 は、集団抗争をつうじて形成された「クニ」をたばねる王とも考えられる。
- ④ 527年に九州で の乱が勃発し、これを鎮圧したヤマト政権は大王権力をさらに拡大した。石人や石馬が置かれた福岡県 古墳は、 の墳墓だと推定されている。
- ⑤ 平安時代には、平将門の乱を描いた『将門記』や、前九年合戦の経過を記した『』などの軍記物語が書かれた。また、インド・中国・日本の1,000以上の説話を集め、武士や民衆の生活・風習も描いた『』が編まれた。
- ⑥ 蒙古襲来で奮戦した肥後国御家人 は、鎌倉幕府の御恩奉行である に直訴して恩賞にあずかり、蒙古襲来絵詞にみずからの奮戦ぶりを描かせ、同国の甲佐大明神に奉納した。北条貞時の母の兄でもある は、のちに霜月騒動で敗死する。
- ⑦ 鎌倉時代以降、農民らが 請や 検断などを自治的におこなう村が各地に成立した。農民らは、領主への要求が受け入れられない場合、大挙して押しかけて訴える強訴や、農耕を放棄して山林などに退去する をおこなって抵抗した。

- ⑧ 室町時代には、将軍の側近として仕え、能や茶道などの技芸に優れた と呼ばれる人々がいた。その一人である能阿弥らに学んだ は、茶禅一味の境地を貫き、侘茶の開祖となった。
- ⑨ 自由民権運動において、演説会が果たした役割は非常に大きかった。政府は を定めて、政社の結成とともに演説会の開催も届け出制にして規制しようとした。明治20年代には演劇で政府批判を展開する者も現れ、そのなかからオッペケペー節で知られる のような人物も出た。
- ⑩ 沖縄の「慰霊の日」は、沖縄戦において日本軍の組織的戦闘が終わったとされる 月23日と定められている。その沖縄戦では、中学校・高等女学校や、教員養成を目的とする 学校の生徒なども多数動員され、多くの命が失われた。

次の文章(A～C)の ～ に最も適当な語句を記し、問(1)～(18)に答えよ。解答はすべて所定の解答欄に記入せよ。

A

菅原道真は、845年に生まれた。祖父の清公も、父の是善も、学問を修めて文章博士となった人物である。清公は嵯峨天皇の 風を重んじる政策に関与し、また勅撰漢詩文集を編纂したことで知られる。

道真は父祖^(a)の学問をよく受けついで、11歳で最初の漢詩を詠み、大学寮で文章道を修めたのち、少内記として官人の道を歩み始めた。そのころ起草した文章に、 王宛の勅書がある。 は当時、日本が定期的な外交関係をもつ唯一の国家であった。さらに道真は、公民支配や租税管理にあたる 省の次官になり、職務に精励した。

877年、彼は文章博士となり、いよいよ活躍したが、886年春の人事会議で讃岐守に任命された。人々は左遷と噂したが、道真は国司の職務を怠らなかつた。讃岐国は、空海・円珍などの高僧や^(b)惟宗直本・讃岐永直などの法律家を輩出してきた、文化の香りの高い地であった。道真は地域社会の実態にふれ、人々の苦勞を詩に詠んだ。国府の西方にそびえる城山の神に雨を祈って、「^(d)八十九郷、二十万口」の公民の安寧を願うこともあった。後年、国司の裁量権を^(e)重んじるべきだと論じたのも、こうした経験によるものであろう。この間、平安京では が起きた。道真はかつて同僚だった橘広相の身を案じ、藤原基経に翻意をうながす意見書を送った。

やがて道真は4年の任期を終え、都に戻った。 天皇からあついで信任を得て、公卿に抜擢された。 天皇が讓位した後も榮達は続いたが、901年、突如として失脚し、2年後、憂悶のうちにその生涯を閉じた。

問

- (1) 下線部(a)について、最初に編まれた「勅撰漢詩文集」の名を記せ。
- (2) 下線部(b)のような、国司などの官吏を任命する政務を、何と呼ぶか。漢字2字で記せ。
- (3) 下線部(c)の人物が編んだ書物の名を記せ。
- (4) 下線部(d)の「二十万口」は「20万人」の意味である。8世紀末ころ国家が把握していた人口は、1郷あたり平均1,500人前後とみられるが、道真が国司として把握していた人口はこれとかなり異なっている。その理由は、郷数・実人口の増減や地域の特性によるものでないとするれば、どう考えればよいか。次の①～④のなかからひとつ選び、数字で答えよ。
 - ① 浮浪・逃亡により、戸籍・計帳に登録される人数が増加した。
 - ② 浮浪・逃亡により、戸籍・計帳に登録される人数が減少した。
 - ③ 戸籍・計帳が実態からかけはなれ、偽って登録される人数が増加した。
 - ④ 戸籍・計帳が実態からかけはなれ、偽って登録される人数が減少した。
- (5) 下線部(e)のような傾向が強まり、10～11世紀には新たな徴税制度が生まれていった。このうち、雑徭の系譜を引く税を何と呼ぶか。

B

1338年、足利尊氏は北朝から征夷大將軍に任じられ、京都に幕府を開いた。その後も、^(f)南朝との対立や幕府内部の争いが長く続いたが、將軍^(g)カは、南北朝の合一や有力守護の勢力削減を経て、全国支配を確立させた。この間、^(h)カは花の御所で政務をとり、將軍職を息子に譲ったのちは⁽ⁱ⁾キに移って実権を握った。幕政にたずさわる守護らも在京し、京都は政治の中心となった。

京都の金融業者に課した土倉役・酒屋役、日明貿易で幕府船の運営を請け負った商人に課した^(j)クなどが幕府の有力な財源のひとつとなり、多くの商人が幕府と結びついて利潤をあげた。一方、高利貸に苦しむ人々によって、大規模な徳政一揆がたびたび京都周辺で起きた。

そして、^(k)將軍家と^(l)有力守護家の家督争いが重なって応仁の乱が起きると、軍事力として足輕が登場し、戦乱によって京都の大部分が焼かれた。また、在京^(m)していた守護の多くも、乱の終結とともに領国に下った。京都の公家や文化人⁽ⁿ⁾も、荒廃を逃れて地方に下り、文化を広める者も多かった。

問

- (6) 下線部(f)が、自らと対立した後醍醐天皇の冥福を祈るために京都に建立した寺院の名称を記せ。
- (7) 下線部(g)に関して、南朝方の貴族が南朝の皇統継承の正しさを主張した歴史書の名称を記せ。
- (8) 下線部(h)に関して、これによってただ一人の天皇となった人物は誰か。
- (9) 下線部(i)に関して、七代将軍の代始めに起きた徳政一揆の名称を答えよ。
- (10) 下線部(j)に関して、応仁の乱後も家督争いが続き、山城国一揆が形成されるきっかけをつくった一族の名称を記せ。
- (11) 下線部(k)に関して、足軽による応仁の乱での略奪の風景を描いた絵巻物の名称を答えよ。
- (12) 下線部(l)に関して、日明貿易で富を築いた守護の城下町で、雪舟をはじめとする文化人が集まった都市名を記せ。

C

江戸時代の百姓は、幕府・藩の政策が原因で苦しい生活を強いられたとき、その撤回や救済などを求めることがあった。大勢の百姓が村を単位に結集し、集団で領主に強訴する **ケ** がよく知られているが、合法的な手続きを踏んだ訴願も多かった。18世紀以降、畿内農村が連合して、幕府に対して木綿・菜種の自由な取引を求めた **コ** と呼ばれる訴願は、その代表である。

17世紀後半以降、各地の農村では商品作物の生産が盛んとなり、努力を重^(m)ねて一代で富を築く百姓もいた。畿内農村では、衣料の原料となる木綿⁽ⁿ⁾や、灯油の原料となる菜種の栽培が盛んとなり、織物業・絞油業も展開した。これら生産品を商人と自由に取引^(o)して高価格で販売できれば、百姓は大きな富を得ることができたが、日用品価格の高騰は人々の生活に影響を与えた。

そこで、18世紀に入ると幕府は、都市の間屋の集団を **サ** として公認し、営業の独占を許し、価格の高騰を防ごうとした。また、江戸の人々の日^(p)用品は、菜種など大坂からの供給に頼るものも多かったため、幕府は江戸に十分な量の商品が供給されるよう努めた。畿内農村の百姓は、こうした幕府の流通政策に反対する **コ** を繰り返し、参加する村数が1,000をこえることもあった。

畿内農村における商品作物の栽培では、油粕や魚肥など金肥の使用が広まった。魚肥では、九州や房総半島で生産された干鰯^(q)の使用が広まり、18世紀になると鰯^(r)も用いられるようになった。蝦夷地で生産された鰯魚肥は、買積が主流であった **シ** と呼ばれる廻船で、蝦夷地方面から下関を廻って大坂周辺地域に運ばれた。百姓は肥料商から魚肥を購入したが、肥料代は農業生産費のなかで大きな比率を占めたため、**コ** では、肥料価格の抑制が要求されることもあった。

問

- (13) 下線部(m)に関連して、浮世草子には木綿栽培をはじめ農業に勤しみ、一代で貧農から富を築いた百姓の物語も描かれている。『世間胸算用』とならぶ町人物の代表で、富裕になる努力を重ねた人々の喜怒哀楽などを描写した作品名を記せ。
- (14) 下線部(n)に関連して、主に阿波で生産され、木綿衣料の染料となった商品作物は何か。
- (15) 下線部(o)に関連して、17世紀末以降、農村内に居住し、百姓が生産した商品作物を集荷し、都市の間屋を介さない流通ルートで販売する商人が現れるようになった。このような商人のことを総称して何というか。
- (16) 下線部(p)に関連して、大坂・江戸間の荷物を扱う間屋の連合体で、海損負担の協定を結んだ江戸の荷受問屋組合を何というか。
- (17) 下線部(q)に関連して、船に積んだ網で魚群を囲い込み、海岸部に引き寄せ、浜から網を引き上げて鱚^{いわし}を漁獲する漁法を何というか。
- (18) 下線部(r)に関連して、18世紀になると、松前藩では藩主や家臣などがもつアイヌ交易権を商人が請け負い、運上金を上納するようになった。この制度を何というか。

IV 日本史B問題

(30点)

次の問(1), (2)について, それぞれ 200 字以内で解答せよ。解答はいずれも所定の解答欄に記入せよ。句読点も字数に含めよ。

- (1) 徳川家綱の時代はどのような時代であったか, 政治を中心に他分野の動向もふまえて説明せよ。

- (2) 第一次世界大戦中から太平洋戦争の開戦までの間, 日本の中国における勢力拡大は日米関係にどのような影響を与えたのか述べよ。

日本史B問題は, このページで終わりである。